

## アラブ世界のソーシャルネットワークワーキングサービスの利用について調べる

高橋 理枝

二〇一〇年のチュニジアのジャスミン革命に始まった「アラブの春」では、フェイスブック (FB) やツイッターといったソーシャルネットワークワーキングサービス (SNS) が民主化を求めるデモの動員に貢献したとされる。本稿では、SNSのアラブ世界における利用状況がわかる情報源のうち、インターネットで入手できるものについて紹介しよう。

SNSの利用に先立ち、まず情報通信技術 (ICT) の整備状況についてみてみよう。各国のICTの状況に関しては、国際電気通信連合 (International Telecommunication Union、以下ITU) がICT Development Index (IDI) を作成している (<http://www.itu.int/ITU-D/ict/publications/di/>)。IDIを掲載した『Measuring the information society』(ITU)の各年版を閲覧可能。二〇一一年のIDIでは、湾岸諸国が上位に並び、カタルが三〇位、アラブ諸国中最上位)、アラブ諸国のワースト三はイエメン (二二六位)、アルジェリア (二〇四位)、シリア (九六位) となっている。ITUのウェブサイトで、各国の電話やブロードバンドの契約者、インターネット利

用等に関するデータも入手できる。

またITUは、二〇一二年に開催するITU Connect Arab Summitを開催しており (<http://www.itu.int/ITU-D/connect/abstates/>)、アラブ世界のICTの発展状況をまとめた『ITU Connect Arab Summit: Connecting the unconnected by 2015: ICT adoption and prospects in the Arab Region』(ITU、IIO11) (<http://www.itu.int/pub/D-IND-AR-2012>) を発行している。

他に関連する指標としては、世界銀行 (World Bank) が作成している知識経済指数 (KEI) や知識指数 (KI) の要素であるICT指数がある。ここでは、バハレーンが全世界でトップにつけている。しかし中東・北アフリカ諸国全体では世界平均 (三・五八) よりわずかに高く (三・九二)、アフリカと南アジア (ともに一・九〇) 以外の地域よりは低い ([http://info.worldbank.org/etools/kam2/KAM\\_page5.asp](http://info.worldbank.org/etools/kam2/KAM_page5.asp))。世銀やITUのデータは、世界における位置づけを知るうえで重要であり、またグラフやチャートを作成する機能がついていて便利だが、アラブ諸国を網羅しているわけではなく、またパレスチナという項目は

存在しない。

またSNSの利用状況だが、Social Bakers社 (<http://www.socialbakers.com>) がFB、ツイッター、YouTubeについて調査しデータを公開している。このデータは多くの統計や調査で情報源とされているが、男女別や世代別の利用状況を入力するには、FBへのログインが必要である。

中東でも、アラブ諸国のICTやSNSの利用状況について独自に調査が進められている。

ドバイ行政大学院が発行する雑誌『Arab Social Media Report』(Dubai School of Government) (<http://mbisga.e/HOME/ARAB-SOCIAL-MEDIA-REPORT/Overview.aspx>) では、各国のFBやツイッター、LinkedInの男女別、世代別利用状況が報告されている。また各号では個別のトピックに関する特集が組まれており、第二号 (二〇一一年五月) の特集「市民運動：フェイスブックとツイッターの影響」では、抗議活動開始時のFBの浸透率や政府によるインターネット遮断措置前後のインターネット・トラフィック状況等について報告されている。またドバイのMADAR Research & Developmentが、独自のArab ICT Use Indexを作成している。『Arab ICT use and social networks adoption report 2012』(MADAR Research & Development, 二〇一二年) ([http://www.kacst.edu.sa/en/.../Arab % 20](http://www.kacst.edu.sa/en/.../Arab%20)

ICT % 20Use % 20Report % 202012.pdf) では、二〇一一年のArab ICT Use Index、FBやツイッターの利用状況に加えて、リンク数の多いアラブのブログ、トップ三〇などが掲載されていて興味深い。

気になるSNSの利用状況だが、『Arab Social Media Report』最新号 (第六号) をみると、二〇一四年のFB浸透率はカタルが約六一%で最も高く、リビアが約四%で最も低い。IDIで上位にあるサウジアラビアやオマーンは二〇%台とエジプトやシリアと同レベルであり、ICTの整備状況とFB浸透率が必ずしも一致しないことがうかがえる。またFBの利用者で女性の比率が高いのは、レバノン四四%、パレスチナ、チュニジア (ともに四二%) で、湾岸諸国では二〇%台と低い。世代別では湾岸諸国では三〇歳以上の利用者が約半数を占めるのに対し、チュニジア、エジプト、パレスチナなどは七八割を若年層の利用者が占める。こうした相違の背景については、今後の研究が待たれるところである。またSNSの政治への影響については評価が分かっているが、日本語でも資料が刊行されているので、稿を改めて紹介したい。

(たかはし) リス／アジア経済研究所 図書館)